

2021（令和3）年度 福岡女子大学 帰国生特別選抜

〔 試験問題 〕

国際教養学科

総合問題

【 90 分 】

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は 4 ページから 14 ページにあります。問題は全部で **13 題**です。
- 3 解答用紙には裏にも解答欄があります。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 試験開始と同時に解答用紙の**受験番号欄に受験番号**を記入してください。
- 6 試験終了後、**問題冊子は持ち帰ってください**。

問題 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

移民が労働市場に与える影響は、経済学でよく研究されている重要な論点だ。雇用や賃金は、私たちにとって身近な問題なだけに関心も高く、移民受け入れの①ゼヒを大きく左右する。移民によって、失業したり、所得が下がったりするのであれば、市民は移民受け入れに反対するだろう。逆に、雇用が創出されたり、所得が上がったりするのであれば、賛成するかもしれない。また、労働市場への影響がないのであれば、他の論点（税金や社会②ホシヨウの負担など）を考慮して、移民の受け入れを判断することになるだろう。

経済理論に基づけば、移民による市民の賃金への影響は、移民と市民の関係による。移民が多くなると、職探しの競争が激しくなる。もし、移民が市民と同じ仕事をこなすのであれば、市民の賃金は下がる。このように、移民を市民と競い合う（同じ性質の）労働者と見なすことを、経済学では「(イ) 代替的」という。

一方、移民は、市民の仕事をサポートしてくれるかもしれない。たとえば、育児や介護、食事の準備などを肩代わりしてくれるようになると、私たちは職場での仕事に集中でき、生産性が上がる。その結果、賃金が上がるかもしれない。このように、移民が市民の仕事をサポートする（違う性質の）労働者と見なすことを、経済学では「(ロ) 補完的」という。

経済理論的には、移民が市民と代替的であれば賃金が下がり、補完的であれば賃金が上がる。「もし〇〇ならば、〇〇である（(ハ) if... , then...）」であり、どうなるかは分からないのだ。このように理論的にどちらともいえない場合には、データを使って検証する（計量分析や実証

分析という)ことになる。現実を見てみようというわけだ。

では、実際のところはどうだろう。

少し古いが今でも参照される論文に、1979年から85年までの個人データを使って、80年に大量にマイアミへ移住した(ニ) キューバ移民の影響を分析した研究がある*1。それによると、キューバからの移民はマイアミの労働力人口を7%も増やした。もし、移民と市民の競争が激しくなっていれば、マイアミの賃金は大きく下がるはずだ。しかし、マイアミにおける単純労働者の時給は、いくつかの(ホ) アメリカの都市に住む単純労働者の時給変動と比べても、③ 著しく下がってはいなかった。このため、移民が流入しても、アメリカ人の賃金が大幅に下がるとはいえないとする。また、賃金だけでなく、マイアミにおける単純労働者の失業率にも影響がなかった。

その後、いくつかの研究が同様の結果を示した。市民の賃金が下がったとしても、その程度は限定的で小さい。

こうした研究結果に対し、ハーバード大学のボージャスは批判的だ*2。

第一に、移民は、賃金が上昇している地域に移住しようとするので、移民の増加と賃金の増加が、本当は関係なくとも、あたかも関係あるように見えてしまう可能性を指摘する。すると、移民によって賃金が低下しても、元からの賃金上昇圧力と打ち消しあい、結局、賃金には影響なしとなる(後述するように、研究によっては、移民は市民の賃金を増やすという結果もある)。

第二に、市民の引っ越しの影響を指摘する。移民によって賃金が下がった地域からは、人が出ていく。そのため、仕事を奪い合う競争が減り、賃金は思ったほど低下

しない。移民の流入による賃金の低下が、市民の流出による賃金の増加により、ある程度④相殺されるということだ。このため、移民を多く受け入れた地域の賃金と、あまり受け入れていない地域の賃金とを比べたとき、その差が⑤ケンチョに表れない可能性がある。(へ) 移民増による引っ越しの影響という副次的な効果と混ざってしまうのだ。

このため、ボージャスは、地域間の比較による分析ではなく、移民と競合する労働者の分類ごとに分析する重要性を訴えている。労働者の分類に基づいた分析であれば、⑥センジュツの移民の移住先選択や市民の引っ越しの影響を考慮に入れられる。すると、移民の影響が、これまでの分析結果とは大きく変わってしまうのだ。少し詳しく説明しよう。

(ト) 移民の影響を分析する方法は、新薬の効果を評価する方法と似ている。新しく開発された薬の効果を調べる治験では、⑦無作為に二つのグループに分けた人たちを比べる。一つのグループには新薬を、もう一つのグループには偽薬（体に害はないが、病気を治す成分も含まれない）を投与して、その効果を比較するのだ。グループ分けは無作為に行い、一つのグループに特定の性質が⑧偏ること（たとえば、高齢者ばかりなど）のないようにする。

偽薬なんて飲んでもしょうがないと思われるかもしれないが、これも必要だ。実験の参加者は、自分が新薬か偽薬かのいずれを飲んでいるのか知らないので、とりあえず何かを飲んでいるだけで効果があるような気になり、実際、病状が改善したりするからだ。あくまで似たような性質の人たちを比べることが大事なのである。こうして、二つのグループの人たちの症状が、どのように変化

するかを比較する。こうした枠組みは「自然実験」と呼ばれる。

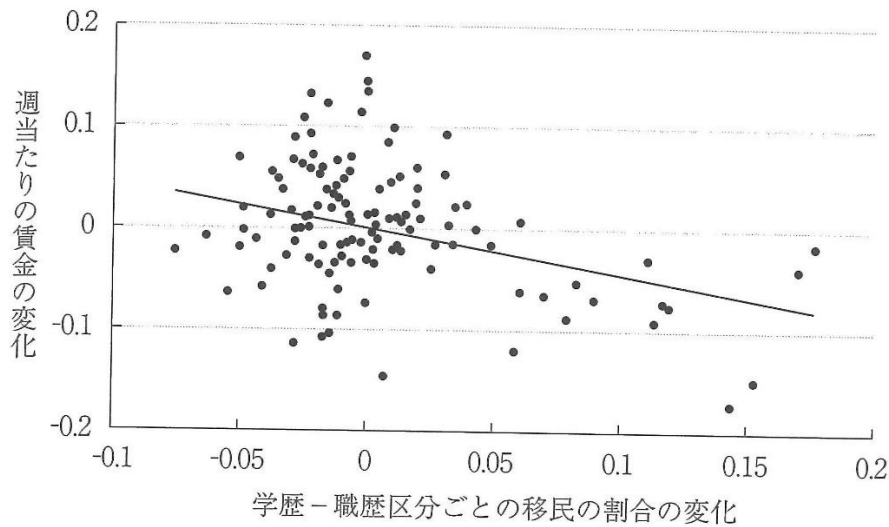
経済学が研究対象とする事柄は、なかなか自然実験と同じようにはいかない。移民の例でいえば、移民は自分の好きな地域に移住するし、市民も引っ越しをする。研究者が、無作為に住む場所を決めるわけにはいかないのだ。

研究者が無作為にグループ分けできないと、意味のある比較ができない。治験の例を思い出そう。男性高齢者のグループと20代女性のグループを比較しても、新薬が症状を改善するかどうかについて、役に立つ情報は得られないだろう。年齢や性別によって、新薬の効果が違うかもしれないからだ。

同様なことが、移民の分析でもいえる。年齢構成など細かい点を含めて、似たような地域を比較しないと意味がないのだ。しかし、強制的に居住区域の指定でもしない限り、研究者が似たようなグループを作ることはできない。

そこで、ボージャスは、自分の意志ではすぐに変えられない労働者の分類（学歴や職歴）に着目した。学歴と職歴を合わせて似たような労働者を分類し、その区分ごとに移民の影響を分析したのだ（図表1-1）。すると、移民の割合が増えている分類区分ほど、収入が下がる傾向があった。移民によって労働者が10%増えると、収

図表1-1 賃金と移民割合の関係 (1960~2000年)



Borjas (2003) Figure 2 より抜粋して作成。

入が3%から4%低下していたのだ*3。学歴と職歴を合わせた区分を使って、似たような背景の移民と市民をマッチングさせた分析をすると、移民と競合する労働者の賃金が下がることが示されたのである。

他の論点も見ておこう。「移民は、そもそも自国生まれの市民がやらない仕事に就くため、市民の賃金に影響がない」という見解は、移民容認派の人たちによく見られる。このような主張も、移民が市民と競合するかという問題に関連している。

ボージャスはこうした見解にも反論する。移民は、「市民がやらない仕事」をしているのではなく、「現在のような低賃金では市民がやりたくない仕事」をやるというのだ。この二つの記述は、似ているようでまったく違う。

たとえば、介護や建設のような仕事は、日本人の求人が困難だ。あえて分かりやすくいえば、(チ) □に汗して働くことはカッコ悪く、冷暖房の効いた部屋でコンピューターのマウスをクリックして(リ) 一攫千金 いっかくせんきんを狙うのがクールだというような価値観により、日本人がこうした

業種で働くことを好まないのであれば、賃金を上げてても日本人の働き手は集まらない。つまり、移民は「市民がやらない仕事」をしていることになる。

(ヌ) ()、介護や建設の現場で働かないのは賃金が低いためであれば、賃金を上げることで、日本人も多く働くようになる。その場合は、移民は「現在のような低賃金では市民がやりたくない仕事」をしている。

どちらの解釈をするかによって、移民の意義が変わってくる。もし、移民が市民のやらない仕事をするのであれば、移民は経済活動における⑨ キチヨウな戦力だ。移民なしには、私たちの生活は立ちゆかなくなる。

一方、(ル) 賃金の低い仕事でも移民が引き受けている場合の解釈は複雑だ。賃金が上がれば市民も働くと考えれば、安い賃金で仕事を請け負う移民は、市民の雇用を奪っていることになる。労働者の立場で見ると、移民は市民と競合しているのだ。しかし、移民が安い賃金で働くおかげで、市民が介護などのサービスを安く利用できるとも考えられる。消費者の観点からは、移民の恩恵があることになる（後の第3章3「女性の社会進出が加速するのか」や第4章1「生活費が安くなり、購買力が上がるのか」で取り扱う）。

本節では、移民の受け入れが労働市場に悪影響を与えるという見解について、ボージャスの議論を中心に見てきた。その見解は、一部メディアで⑩ 懸念されるような移民警戒論に通じるものがある。しかし、これまでの経済学研究ではいろいろな結果が示されており、必ずしも意見が一致しているわけではない。

（友原章典『移民の経済学』中公新書、2020年、12-19頁による。一部削除した箇所あり）

問 1 傍線 ①～⑩の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

問 2 下線部（イ）と（ロ）に関連して、次の2つの関係は代替的であるか、補完的であるか。適切な方を○で囲みなさい。

ア コーヒーと砂糖

イ おにぎりとパン

ウ 眼鏡とコンタクトレンズ

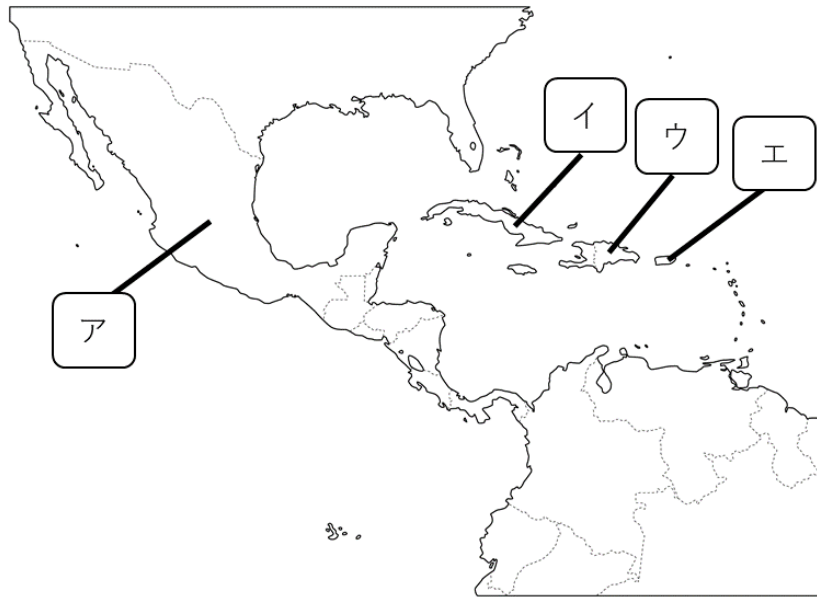
問 3 下線部（ハ）の if に関連して、(a)～(c)の英文を日本語に訳しなさい。

(a) If it were not for water, we could not live.

(b) He speaks as if he knew everything.

(c) Even if I had enough time, I wouldn't travel this winter.

問 4 下線部（ニ）のキューバは次のページの地図の ア～エのうちのどれか。記号で答えよ。



問 5 下線部（ホ）のアメリカの歴史に関するア～オの記述で、正しいものはどれか。ひとつを選び、記号で答えよ。

ア 18世紀後半のアメリカ独立戦争は、1776年のパリ条約で終結した。独立を果たしたアメリカは、イギリスからミシシッピ河以西のルイジアナを譲り受けた。

イ 1899年のアメリカ＝スペイン戦争に勝利したアメリカは、スペインからキューバを譲り受けた。

ウ 1920年に設立された国際連盟は、第1次世界大戦中のウィルソン大統領の提案がもとに設立されたものの、アメリカは議会の反対のために加盟しなかった。

エ 2016年のアメリカ大統領選挙では、共和党候補のトランプが民主党候補のオバマを破って当選した。

問 6 下線部（へ）の移民増による引っ越しの影響という副次的な効果を本文中の言葉を使って80字以内で説明しなさい。

問 7 下線部（ト）と考える理由は何か。本文中から25字前後で書き出しなさい。

問 8 図表1-1は、賃金と移民割合の関係を表したグラフである。この図から読み取れることとして適切なものを1つ選びなさい。

ア 移民の割合が増えている区分ほど、賃金の成長率が高い。

イ 移民の割合が増えている区分の中には、賃金が低下しているものもある。

ウ 移民の割合が減少している区分では、賃金が上昇しているものはない。

エ 賃金が高い区分ほど移民の割合は小さい。

問 9 下線部（チ）に当てはまる適切な漢字を1文字書きなさい。

問 10 下線部（リ）に関連して以下の意味をもつ四字熟語として最も適切なものをひとつ選びなさい。

自分の意見がなく安易に人の説に賛成するさま

ア 付和雷同

イ 我田引水

ウ 馬耳東風

エ 大同小異

問 1 1 下線部（ヌ）に当てはまる最も適切な接続詞を次のア～ウからひとつ選んで記号で答えよ。

ア すなわち イ そして ウ しかし

問 1 2 下線部（ル）について、筆者はなぜ解釈が複雑と考えているのか。本文中の言葉を使って100字程度で説明しなさい。

問 1 3 移民に関するボージャスの議論に対するあなたの意見を400字以内で答えなさい。

